

8)第八日目 利尻山(1721m)

H19年6月25日(月) 晴

- ・朝3時起床。荷物をまとめトイレへ行って出発準備。朝早いめか「大」が出ない、困ったね。
- ・3時50分もう外はすっかり明るい。泊り客8人デカイお弁当を受け取って宿の車で登山口まで送ってもらう。登山口にはすでに大勢の登山客がたむろしている。早速登山開始、アプローチの広いなだらかな坂道を



登山口・北麓野営場



甘露泉水

まず甘露泉水を目指して歩く。空は雲が切れて青空がのぞいてきた。甘露泉水から先徐々に山道がきつくなる。登ってゆくに従って立ち込めていたガスがどんどん上がってゆき、8合目あたりでは頂上も見えだした。太陽も顔を出し真夏の日差しが暑く差し始めた。

- ・登り始めてから5時間余、念願の利尻山頂に立つ。

空は快晴の青空で日差しが暑い。海拔200mの登山口から山頂の1721mまで1500mも登りっぱなしのきつい山、最後山頂までの200mくらいは富士山の須走りさながらのザラ場続きで、狭い尾根の急坂である。若い人もいるがご高齢とも思われる男女が大勢登っており感心させられる。



途中雲が晴れてきた



利尻山頂

- ・山頂は平らだが狭く周囲は切り立っていて危険極まりない。立派な祠があり無事登頂出来たことに礼を言って朝食とする。2食分はあろうかと思うほどの「まるぜん」のお弁当。周囲の景色を存分に眺めつつ20分くらい頂上に滞在して下山。残念ながら明日行く予定の礼文島は雲に包まれていて見る事が出来なかった。登ってくる人も徐々に増え狭い頂上は満杯状態。

- ・頂上から沓掛分岐までは狭く切れ込んだ砂礫の道で次々団体で登ってくる登山者の通過を待ちながらの下山となりかなり時間をとられた。こんなに登山者が多いとは！朝早く登って来てよかった。



登山者の通過待ち



下山途中から望む鷺泊港

- ・それでも天気も眺望も良く、気持ちの良い下り、14時前に今朝出発した登山口に戻った。

- ・「まるぜん」に電話するとすぐに迎えに来てくれて、利尻富士温泉へ。ゆっくりと今日の疲れを癒し生ビール。外は真夏の日差しがガンガン、しかし風は涼しくてほろ酔いの体になんとも気持ちが良い。
- ・さて利尻岳だが期待した花は殆どなく、頂上付近のリシリヒナゲシやボタンキンバイの群落は全く見られず期待はずれだった。途中にエゾノハクサンイチゲは良く咲いていたがその他の花はあまりなく寂しかった。(今年は麓の花は早く咲き終わり、頂上付近の花は遅くてまだ咲いていないとのこと。花の時期は難しい。)
- ・夜はまたフェリーターミナル2階のレストランで豪華な海鮮コース。昼間温泉で生ビールを飲んだので今夜は昆布焼酎で乾杯した。
- ・宿に戻り寝る前に、宿のお兄さんと札幌のおじさんと本州のおじさんと、北海道の山や、花や、熊の話に花をさかせて大変楽しかった。今夜の部屋は昨日の屋根裏部屋から離れの2階の個室に移りゆっくり寝た。今日は素晴らしい一日だった。

*夕食時 今までガスに覆われ全容を見せなかった利尻岳が一瞬だがガスが晴れて麓から頂上までその全容を現した。残念ながらカメラを持ってこなかったので撮影できなかった。一番の心残りとなった。…あとから気がついたが 携帯電話にカメラが付いていたのだ!! それこそ残念。ほんの一瞬で その後は全く姿を見せなかった。

[見られた花] 44種(名前のわかったもの 23種 名前不詳花 18種 名前不詳木 3種)

- ・オククルマムグラ ・ツマトリソウ ・アマドコロ ・ヤマブキショーマ ・オオバナノエンレイソウ
- ・ウコンウツギ ・キバナノコマノツメ ・コミヤマカタバミ ・チシマフーロ ・イワベンケイ
- ・エゾノハクサンイチゲ ・ミヤマアズマギク ・エゾエンゴサク ・ボタンキンバイ ・イワウメ
- ・マイズルソウ ・ツバメオモト ・キツネノボタン ・エゾノツガザクラ ・キバナシャクナゲ
- ・クルマバソウ ・ハクサンチドリ



ボタンキンバイ



エゾノハクサンイチゲ